

## 目 次

移動式製造設備（充填設備）の概要	-2-
過去2ヶ年の当該特定施設の変更工事内容	-5-
【高圧ガス保安法】(保安法)	
製造のための施設の位置、構造及び設備（従来型タンクローリー） についての技術上の基準	-6-
【液化石油ガス法】(液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律)	
充填設備（新型バルクローリー）の技術基準	-10-
液化石油ガスの充填作業の技術基準	-14-
その他の検査項目	
車両に固定した容器による移動に係る保安上の措置及び技術上の基準	-18-
容器保安規則関係基準	-19-
保安教育、危害予防規程、定期自主検査等について	-19-
危害予防規程の変更の履歴	-21-
保安管理組織表	-22-

## 記 入 上 の 注 意

- 1 各項目の\_\_\_\_\_で示した箇所に求めた数値、記号または語句等を記入し、検査結果の「適」、「不適」に を付けてください。改善後に適となった場合等はその旨を余白に記入してください。
- 2 検査結果欄には、検査結果、措置等を具体的に記入してください。
- 3 該当しない項目については、検査結果欄に赤色で斜線を入れてください。
- 4 ガス漏えい検知警報設備、防消火設備等で設備が複数設置されている等、記入が困難な場合には、設置の状況やその根拠を示してください。
- 5 規則・告示については、令和5年12月現在のものであり、今後、国の法令等の改正に伴って内容が変更されることがあります。
- 6 判定基準には、技術上の基準のほか例示基準の概要等を示しています。また、この保安検査記録は保安検査方法の概要を示したものです。検査方法の詳細は液化石油ガス保安規則及び関係する告示、例示基準等を参照してください。
- 7 記入にあたってはSI単位を用いてください。
- 8 「保安検査の基準日」は、前回の保安検査証に記載されている「保安検査の年月日」から1年を経過した日を記載してください。なお、保安検査証を受けたことがない施設については、空欄にしてください。

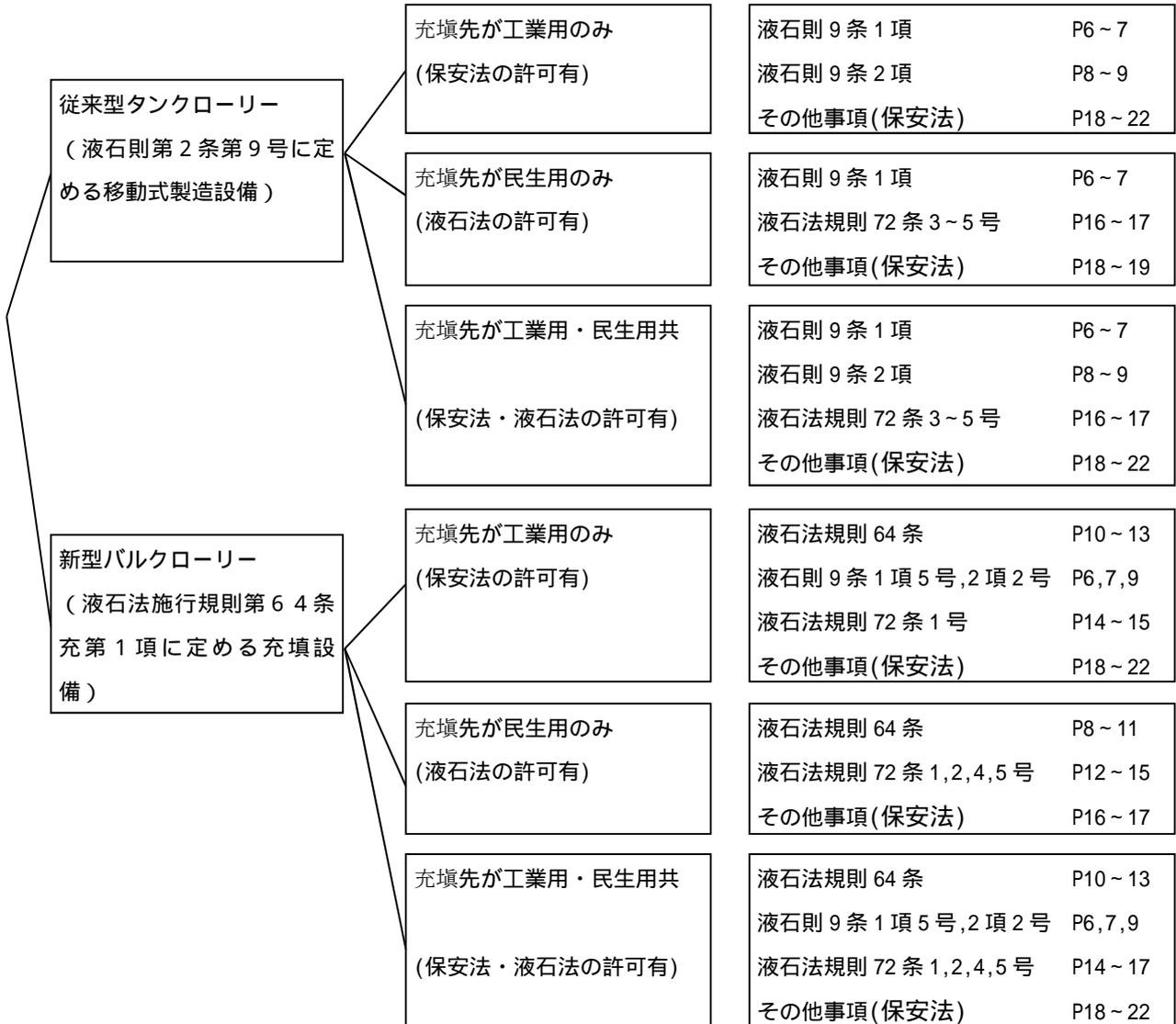
# 施設の概要

## 1. 移動式製造設備（充填設備）の概要

車両登録番号	容器番号	容器製造日	再検査年月日	処理能力(Nm <sup>3</sup> /日)

保安検査の基準日：令和\_\_年\_\_月\_\_日

車両の形式・許可の種類による適用法令と保安検査記録の記入ページ



保安法 = 高压ガス保安法      液石則 = 保安法液化石油ガス保安規則

容器則 = 保安法容器則

液石法 = 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律

液石法規則 = 液石法施行規則

充填設備：液石法においては「充てん設備」と標記

その他事項(保安法) = 保安法の定期自主検査関係、危害予防規定関係、保安教育関係

P16 移動の基準関係(液石則48条)は、全ての製造施設、充填設備に対して記載が必要です。

P17 容器則関係(10条,24条)は、全ての移動式製造設備、充填設備に対して記載が必要です。

P17~20 充填先が民生用のみ(保安法の許可がない場合)は記載不要です。

新型バルクローリーで工業用に充填する場合(保安法の許可を有する場合は)液石則9条1項5号及び、2項2号の容器置場の基準が適用されます。また、製造の方法の基準は液石法規則72条1号の基準が適用されます。

2. 保安検査対象の施設の事故履歴

製造施設名	事故発生年月日	事故の内容

3. 保安に係る取組状況（当該事業所におけるもの）

<p>保安管理のための 危害予防規程以外の 規程、基準、手順 書、マニュアル等の 整備状況</p>	
<p>危険予知訓練、 ヒヤリハット等の 取組状況</p>	
<p>社内における委員 会、研究会、ワーキ ング等の取組状況</p>	
<p>社外における委員 会、研究会、訓練等 への参加状況</p>	
<p>従業員へのOJT に関する取組状況</p>	

上記各種取り組み に関する記録状況  他、得られた技術情 報の整備状況	
---	--

4. 従事者数等

事業所 従業員 数	名	高圧ガス 製造施設 従事者数	液化石油ガス 名 その他のガス 名 合計 名	製造保安 責任者 免状 所有者数	名	移動 監視 者数	名
-----------------	---	----------------------	------------------------------	---------------------------	---	----------------	---

〔過去2ヶ年の当該特定施設の変更工事内容〕

番号	変更許可(届出年月日及び番号)	変更内容(なるべく項目ごとに記載すること)
	完成検査の年月日及び番号	
1	-----	
2	-----	
3	-----	
4	-----	
5	-----	
6	-----	
7	-----	
8	-----	
9	-----	
10	-----	
11	-----	
12	-----	
13	-----	
14	-----	
15	-----	

# 製造のための施設の位置、構造及び設備についての技術上の基準

(液石則第9条第1項)

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
第1号	引火性物質等の状況	目視	製造施設の付近に引火性物及び発火性物がないか。	適 不適
第2号	警戒標	目視及び検査記録類	充填作業中に第三者の目につきやすい場所に掲げるようになっているか。 破損等がないか確認すること。	適 不適
第3号 (第6条第1項第17号) 告4条	高压ガス設備の耐圧性能(容器を除く)	試験及び記録類	高压ガス設備の種類、使用材料等の区分ごとに定める期間内に1回以上の内部目視検査、外部目視検査及び非破壊検査を実施し、異常のないこと。  非破壊検査の種類： _____  検査実施日： _____年__月__日	適 不適
第3号 (第6条第1項第18号) 告5条	高压ガス設備の気密性能	試験及び記録類	運転状態若しくは運転を停止した状態又は開放検査後の組み立て状態において気密試験を実施し、漏えいのないことを確認すること。 [常用圧力] _____ MPa [試験圧力] _____ MPa [試験日] _____年__月__日 [保持時間] _____分間 [使用ガス名] _____	適 不適
第3号 (第6条第1項第19号)	高压ガス設備の肉厚(容器を除く)	目視、計測、記録類及び図面	肉厚測定用器具で肉厚を測定し、常用の圧力に応ずる十分な強度を有する肉厚であるか確認したか。 また、強度を弱める腐食がなかったか。 肉厚測定箇所を数点以上定めておくこと。 [測定日] _____年__月__日	適 不適
第4号 26	消火設備	目視、作動試験、記録類及び図面	粉末消火器を設置しているか。 (1)粉末消火器 (能力単位 B-10 の消火器 3 個相当)	適 不適 能力単位： B- _____ 個数： _____個
第5号 (第6条第1項第35号イ)	容器置場の明示及び警戒標	目視及び図面	L P ガス容器置場、火気厳禁、立入禁止等、第三者に識別できる大きさを掲示してあるか。 汚損等がないか確認すること。	適 不適

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
第5号 (第6条 第1項 第35号 八、 第35号 二)	置場距離	目視、計測記録類及び図面	容器置場面積：_____m <sup>2</sup> 置場距離短縮措置 有 ・ 無 第1種置場距離 [法定]_____m [実際]_____m 【保安物件名】(固有名詞) 確認のこと。 _____ 第2種置場距離 [法定]_____m [実際]_____m 【保安物件名】(固有名詞) 確認のこと。 _____ 容器置場の外面から敷地境界までの最短距離 _____m 置場距離短縮措置がある場合 [措置内容] ( )	適 不適
第5号 (第6条 第1項 第35号 へ)	容器置場のガスの滞留防止	目視及び図面	滞留しない構造になっていること。 1. 開口部 : _____方向 2. 四方を囲まれた容器置場の場合 容器置場面積：_____m <sup>2</sup> 換気口2方向以上で床面積1 m <sup>2</sup> 当たり300cm <sup>2</sup> 以上 換気口 : _____方向 開口部面積：_____m <sup>2</sup>	適 不適
第5号 (第6条 第1項 第35号 チ) 26	容器置場の消火設備	目視及び図面	粉末消火器の設置 1. 停滞量10トンにつき「B-10」1個相当以上のものを設置(最小設置数：2個相当以上) 2. 設置状況等 設置状況(外観、検査状況を含む。)は適切か。	1. 適 不適 能力単位： B-_____ 個数： _____個 2. 適 不適

備考 告4条：製造細目告示第4条

：液化石油ガス保安規則の機能性基準の運用について(例示基準)1.

(参考事項)

開放検査に係る計画・実績表

機器名 / 年度 (西暦)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
容器												
ポンプ ( )												
ポンプ ( )												
配管弁類 ( )												
配管弁類 ( )												
配管弁類 ( )												
その他 ( )												
その他 ( )												
その他 ( )												

実施済み を 、 実施予定を で表記してください。

製造の方法についての技術上の基準 (液石則第9条第2項)

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果	
充填についての保安上支障のない形態 (第1号)	イ		目視、記録類	1. 車両に固定された容器 (燃料用として充填するものに限る) には、充填しないこと。	1. 適 不適
	ロ	保安距離	目視	2. 充填するときは、あらかじめ、製造設備の外側から第一種保安物件、第二種保安物件に対して、それぞれ 15m 以上、10m 以上の距離があることを確認しているか。 ただし、受入者が許可を受け、又は届出されている設備に充填する場合は受入者の設備と同一敷地内の保安物件は除かれる。 保安距離又は許可、届出の有無の確認方法  ( )	2. 適 不適
	ハニ	過充填の防止	目視	3. 充填する容器、貯槽の液面計、過充填防止装置の確認をしているか。 内容積 1,000 ℓ を超える容器、貯槽 液面計若しくは過充填防止装置 内容積 1,000 ℓ 以下の容器、貯槽 液面計及び過充填防止装置	3. 適 不適
	ホ	貯槽への充填	目視	4. 貯槽に充填するときは内容積の 90% を超えないようにしているか。	4. 適 不適

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果	
	へ ④②	火花放出防止措置	目視	5. 火花放出防止措置が施されているか。損傷はないか。	5.適 不適
	ト ④③	ガス漏えいの防止	目視	6. 送り出し、受入れの際は、配管の接続部分においてガスの漏えいが無いことを確認しているか。 また、配管内のガスを危害の生ずるおそれのないように少量ずつ放出した後これらの配管をとりはずしているか。	6.適 不適
	チ ②⑤	静電気除去措置	目視	7. 接地接続線に腐食や断線はないか。	7.適 不適
	リ	車両の固定	目視	8. 車輪止めを携行しているか。(2個以上) (容器の内容積が4,000リットル以上の場合)	8.適 不適
容器 置場 (第2号)	第6条 第2項 第7号 イ	置場の区分	目視	充填容器と残ガス容器を区分して容器置場に置くこと。	適 不適
	第6条 第2項 第7号 ロ	置場の整理	目視	計量器等作業に必要なもの(*1)以外の物を置かないこと。 (容器が搬入されている場合に限る)	適 不適
	第6条 第2項 第7号 ハ 40	火気使用禁止等	目視	1. 周囲2m以内においては火気の使用を禁止するとともに引火性、発火性の物を置かないこと。 2. 障壁の設置の有無 <u>有</u> ・ <u>無</u> 障壁の構造：_____	適 不適
	第6条 第2項 第7号 ホ 41	転落、転倒防止措置	目視	転落、転倒防止措置内容(内容積が5ℓ以下のものを除く) _____ _____	適 不適
第6条 第2項 第7号 ヘ	携帯電灯以外の燈下携帯禁止	目視	携帯電燈以外の燈火を携帯して立ち入らないこと。	適 不適	

\*1 計量器等作業に必要な物：計量器、転倒防止装置、工具、消火設備、気密試験設備、  
塗装用設備(塗料を除く)、温度計等

# 液化石油ガス法

充填設備（新型バルクローリー）の技術基準（液石法規則第64条第1項）

基準	検査項目	検査方法	バルク告示	判定基準	検査結果
第1号	貯蔵設備	目視 (容器の確認)		容器の刻印又は標章の確認	適 不適
第2号	耐圧試験	試験又はその記録	17	当該設備の内部及び外部について、目視及び非破壊検査により設備の欠陥の有無を検査し、異常がないこと。 [検査実施日] ____年__月__日	適 不適
第3号	気密試験	試験又はその記録	18	常用の圧力以上の圧力で安全な気体を使用して行い、10分間以上保持して漏えいがないこと。 [常用圧力] _____MPa [試験圧力] _____MPa [試験日] ____年__月__日 [保持時間] _____分間 [使用ガス名] _____	適 不適
第4号	肉厚	測定又はその記録	19	肉厚測定器具で肉厚を測定し、最小厚さ以上の肉厚を有すること。 [測定日] ____年__月__日	適 不適
第5号	充填ポンプ又は圧縮機	目視及び図面		起動及び停止は遠隔操作が可能であること。	適 不適
第6号	発電機	図面等		発電機（有・無） 火花を発生しない機構であること。	適 不適
第7号	充填ホース	目視 記録等		設置状況 JIS-K6347(1995)鋼線編組式ホース	適 不適
第8号	充填ホースの安全継手	作動試験又はその記録 長さ測定	20	1. 液化石油ガスに侵されない材質（_____） 2. 530Nの引張荷重を加えたとき、自動的に分離し、瞬時に遮断する。 3. 充填ホースの先端から60cm以内長さ（_____cm）	適 不適
第9号	充填ホースのカップリング用液流出防止装置	目視 記録	21	設置状況 1. 液化石油ガスに侵されない材質（_____） 2. 容易に切り離しが可能 3. 1万回以上の接続、切り離しに耐える。（型式ごとの作動試験合格品） 4. 接続、切り離しを10回繰り返した場合の漏れ量が50cm <sup>3</sup> 以下。 5. 1mの高さから自然落下させたときに漏れがなく、かつ、着脱性能に影響がない。 6. 使用中及び輸送中の振動に耐える。	適 不適

基準	検査項目	検査方法	バルク告示	判定基準	検査結果
				7.表示 製造事業者の名称、記号 製造番号 製造年月 呼び径	
第 10 号	均圧ホース	目視 記録等		均圧ホース（有・無） 設置状況 JIS-K6347(1995)鋼線編組式ホース	適 不適
	均圧ホース用 安全継手	目視 作動試験又は その記録 長さ測定	20	設置状況 1. 液化石油ガスに侵されない材質（_____） 2. 530N の引張荷重を加えたとき、自動的に分離し、瞬時に遮断する。 3. 充填ホースの先端から 60cm 以内	適 不適
	均圧ホース用 脱着カップ リング	目視 記録等	22	設置状況 1. 液化石油ガスに侵されない材質（_____） 2. 容易に切り離しが可能 3. 1 万回以上の接続、切り離しに耐える。（型式ごとの作動試験合格品） 4. 接続、切り離しを 10 回繰り返した場合の漏れ量が気体状態で 12 ℓ以下。 5. 1m の高さから自然落下させたときに漏れがなく、かつ、着脱性能に影響がない。 6. 使用中及び輸送中の振動に耐える。 7. 表示 製造事業者の名称、記号 製造番号 製造年月 呼び径	適 不適
第 11 号 第 12 号	緊急遮断装置	目視又は図面 作動試験又は その記録		緊急遮断装置（有・無） 破損防止機能（有・無） 逃し弁等（有・無）	適 不適
第 13 号	液面計	目視 作動試験又は その記録	23	設置状況 1. 液化石油ガスに侵されない材質（_____） 2. 耐圧部分は、ガラス若しくは合成樹脂を使用しない。材質（_____） 液化石油ガスを放出しない構造 構造（_____） 3. 自動車部品振動試験合格品 JIS-D1601(1990)	適 不適
第 14 号	温度計	目視 精度測定又は その記録	24	設置状況 1. 液相部を測定 2. 測定範囲及び目盛範囲 （最低目盛と最高目盛の範囲は 100 度）	適 不適



基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
第 19 号 (第 14 条 第 1 号) 《1》	充填設備 の使用の 本拠	目視及び図面	充填設備の使用の本拠地の所在地は明示し、警戒票を掲げる 1. 掲示位置 出入口、又は外部から見やすい場所 2. 表示内容 イ LP ガス充填設備 ロ 燃 ハ 火気厳禁 第三者に識別できる大きさを掲示してあるか。汚損等がないか確認すること。	適 不適
第 19 号 (第 14 条 第 2 号, 第 3 号) 《2》	施設距離	目視、計測記録類及び図面	充填設備の本拠地の所在地の面積 : _____m <sup>2</sup>  施設距離短縮措置 <u>有</u> ・ <u>無</u>  第 1 種施設距離 [法定] _____m [実際] _____m 【保安物件名】(固有名詞) 確認のこと。 _____  第 2 種施設距離 [法定] _____m [実際] _____m 【保安物件名】(固有名詞) 確認のこと。 _____	適 不適
第 19 号 (第 14 条 第 5 号) 《4》	滞留しないような構造	目視及び図面	滞留しない構造になっていること。 建屋設置なし 床面積 : _____m <sup>2</sup> (床面積 1 m <sup>2</sup> 当たり 300cm <sup>2</sup> 以上) (一箇所の換気口面積 2,400cm <sup>2</sup> 以下) 開口部面積 : _____m <sup>2</sup> 四方を囲まれている場合 換気口 : _____方向 強制換気装置 (例示基準 4.(2)の基準に適合)	適 不適

《1》: 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律施行規則の例示基準 1 .

# 液化石油ガス法

## 液化石油ガスの充填作業の技術基準（液石法規則第 72 条）

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
第 64 条 第 1 項 の 充 填 設 備 に よ り バ ル ク 容 器 又 は バ ル ク 貯 槽 に 充 填 す る 場 合	第 1 号 イ	最初に充填する場合の確認	目視 液化石油ガスを最初に充填する場合は、バルク容器又はバルク貯槽のメーカーより提出されたつぎの試験成績書等を確認し、充填を実施しているか。 1.バルク貯槽等の不活性ガス置換及び気密試験 2.液面計作動試験 3.過充填防止装置作動試験	適 不適
	第 1 号 ロ	保安距離	目視 充填するときは、あらかじめ、充填設備の外面から第一種保安物件、第二種保安物件に対して、それぞれ 1.5m 以上、1.0m 以上の距離があることを確認しているか。距離が不足する場合は、第 19 条第 3 号口の構造壁等の設置を確認しているか。 保安距離の確認方法 ( )	適 不適
	第 1 号 ハ	充填開始前の確認	目視 充填開始前に、充填設備とバルク貯槽等との接続部分に液化石油ガスの漏えいがないことを確認しているか。	適 不適
	第 1 号 ニ	充填ホース	目視 充填ホース上を車両が通過しないよう確認しているか。	適 不適
	第 1 号 ホ	標識	目視 充填作業中は、充填設備の車両の周囲に「充填作業中」、「火気厳禁」の警戒標識を掲げているか。	適 不適
	第 1 号 ヘ	ブレーキ表示灯	目視 充填作業中は、駐車ブレーキをかけ、非常点滅表示灯を点灯しているか。	適 不適
	第 1 号 ト	車止め	目視 充填作業中は、車止めを設けること等により車両を固定しているか。	適 不適
	第 1 号 チ	液面計の監視	目視 充填作業中は、バルク貯槽等の液面計を常時監視し、充填した液化石油ガスの容量がバルク貯槽等の内容積の 85%（地下埋設バルク貯槽で内容積 2,000 リットル以上の場合は 90%）を超えないように確認しているか。	適 不適
	第 1 号 リ	キャップの取外し	目視 カップリング用液流出防止装置からキャップを取り外すときは、ブリーダ弁を開いてから行っているか。	適 不適
	第 1 号 ヌ	作業終了後	目視 充填作業終了後は、カップリング用液流出防止装置から液化石油ガスの漏えいがないことを確認した後、キャップを装着し、ブリーダ弁を閉じているか。	適 不適

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果	
	第 1 号 ル	液封防止	目視	バルク貯槽等の液取入弁は、液封を防止するため常時開放していることを確認しているか。	適 不適
	第 1 号 ヲ	基礎等の確認	目視	バルク容器に充填するときは、基礎に確実に設置され、安全な充填が可能であることを確認しているか。	適 不適
	第 1 号 リ	充填設備の使用の本拠火気使用禁止等	目視	1. 充填設備の使用の本拠地の所在地は、周囲 2m 以内においては火気の使用を禁止するとともに引火性、発火性の物を置かないこと。 2. 障壁の設置の有無 <u>有</u> ・ <u>無</u> 障壁の構造： _____	適 不適
第 64 条 第 1 項 の 充 填 設 備 に よ り 容 器 又 は 貯 槽 に 充 填 す る 場 合	第 2 号 イ	最初に充填する場合の確認	目視	液化石油ガスを最初に充填する場合は、容器又は貯槽のメーカーより提出されたつぎの試験成績書等を確認し、充填を実施しているか。 1. 貯槽等の不活性ガス置換及び気密試験 2. 液面計作動試験 3. 過充填防止装置作動試験	適 不適
	第 2 号 ロ	保安距離	目視	充填するときは、あらかじめ、充填設備の外面から第一種保安物件、第二種保安物件に対して、それぞれ 15m 以上、10m 以上の距離があることを確認しているか。 保安距離の確認方法 ( )	適 不適
	第 2 号 ハ、ニ	充填開始前の確認	目視	貯槽等に充填するときは、あらかじめ以下の装置等が設けられているか確認しているか。 ハ 内容積 1,000 ㍓を超える貯槽等 液面計又は過充填防止装置 ニ 内容積 1,000 ㍓以下の貯槽等 液面計及び過充填防止装置	適 不適
	第 2 号 ホ	貯槽液面計の監視	目視	貯槽への充填作業中は、液面計を常時監視し、充填した液化石油ガスの容量が貯槽の内容積の 90%を超えないように確認しているか。	適 不適
	第 2 号 ヘ	漏えいがないことの確認	目視	充填開始前及び充填中は、充填設備と貯槽等との接続部分に液化石油ガスの漏えいがないことを確認しているか。	適 不適
	第 2 号 ト	キャップの取外し	目視	カップリング用液流出防止装置からキャップを取り外すときは、ブリーダ弁を開いてから行っているか。	適 不適
	第 2 号 チ	準用	目視	第 1 号ニからトまで及び、ワの基準に適合するように液化石油ガスを充填しているか。	
	1 号 ニ	充填ホース	目視	充填ホース上を車両が通過しないよう確認しているか。	適 不適

基準		検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
	1号 ホ	標識	目視	充填作業中は、充填設備の車両の周囲に「充填作業中」、「火気厳禁」の警戒標識を掲げているか。	適 不適
	1号 ハ	ブレーキ表示灯	目視	充填作業中は、駐車ブレーキをかけ、非常点滅表示灯を点灯しているか。	適 不適
	1号 ト	車止め	目視	充填作業中は、車止めを設けること等により車両を固定しているか。	適 不適
	1号 リ	充填設備の使用の本拠火気使用禁止等	目視	1. 充填設備の使用の本拠地の所在地は、周囲2m以内においては火気の使用を禁止するとともに引火性、発火性の物を置かないこと。 2. 障壁の設置の有無 <u>有</u> ・ <u>無</u> 障壁の構造：_____	適 不適
第64条第2項の充填設備により充填する場合	第3号 イ	最初に充填する場合の確認	目視	液化石油ガスを最初に充填する場合は、容器、貯槽、バルク容器又はバルク貯槽のメーカーより提出されたつぎの試験成績書等を確認し、充填を実施しているか。 1.バルク貯槽等の不活性ガス置換及び気密試験 2.液面計作動試験 3.過充填防止装置作動試験	適 不適
	第3号 ロ	停止場所	目視	充填設備の停止場所が以下の土地であるか。 他の車両と接触事故等を起こすおそれのない場所 液化石油ガスを供給する者又は供給を受ける者の所有又は占有する土地内	適 不適
	第3号 ハ	保安距離	目視	充填するときは、あらかじめ、充填設備の外側から第一種保安物件、第二種保安物件に対して、それぞれ15m以上、10m以上の距離があることを確認しているか。 保安距離の確認方法  ( )	適 不適
	第3号 ニ 第3号 ホ	充填開始前の確認	目視	容器又は貯槽に充填するときは、あらかじめ以下の装置等が設けられているか確認しているか。 ニ 内容積1,000ℓを超える容器又は貯槽 液面計又は過充填防止装置 ホ 内容積1,000ℓ以下の容器又は貯槽 液面計及び過充填防止装置	適 不適
	第3号 ハ	貯槽液面計の監視	目視	貯槽への充填作業中は、液面計を常時監視し、充填した液化石油ガスの容量が貯槽の内容積の90%を超えないように確認しているか。	適 不適
	第3号 ト	火花放出防止	目視	充填するときは、充填設備の原動機からの火花の放出を防止する措置を講じているか。	適 不適

基準		検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
	第3号 チ	静電気除去	目視	充填するときは、充填設備に生ずる静電気を除去する措置を講じているか。	適 不適
第4号 第5号		ポンプ又は圧縮機からの漏えいの確認	目視	充填するときは、ポンプ又は圧縮機の液化石油ガスの漏えいの有無を点検しているか。漏えいのある時は、補修その他の危険防止措置を講じているか。 あらかじめ確認している 操作箱内のガス漏れ検知器等による確認 (軸シール部のない構造のものを除く)	適 不適

## その他の検査項目

車両に固定した容器による移動に係る保安上の措置及び技術上の基準（液石則第 48 条）

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
第 1 号	車両の警戒標	目視	(1) 車両の正面及び後方から見える個所に設置されているか。 (2) 規定の寸法のものに、黒地に蛍光黄で「高圧ガス」と記載されているか。 汚損していないか。	適 不適
第 2 号 45	温度計等	目視	温度計又は温度を適切に検知することができる装置を設けているか。	適 不適
第 4 号 47	高さ検知棒	目視	(1) 運転室の上部に設けられており、運転者が検知できるものであるか。 (2) 検知棒の先端が容器(付属品を含む)の頂部よりも 10cm 以上の高さであるか。 (3) 可とう性があるか。 腐食、損傷していないか。	適 不適
第 10 号 51	バルブ、コックの表示	目視	(1) 開閉方向の表示及び「開」、「閉」の表示板が取り付けられているか。 (2) 開閉表示板が脱落していないか。	適 不適
第 11 号 52	移動開始時及び終了時の点検	記録類及び危害予防規程附属基準類(規程類)	1. 移動開始時及び終了時の点検を行っているか。 点検項目に漏れがないか 2. 異常事態を想定した作業基準を定めてあるか。	1. 適 不適 2. 適 不適
第 12 号 53	消火設備ならびに応急措置に必要な資材及び工具等の携行	目視	(1) 消火器を携行しているか 能力単位 _____ 個数 _____ (2) 必要な資材及び工具等を携行しているか。 ・ 赤旗 ・ 赤色合図灯又は懐中電灯 ・ メガホン ・ ロープ(15m 以上 2 本) ・ 漏えい検知剤 ・ 車輪止め(2 個) ・ 革手袋	(1) 適 不適 (2) 適 不適
第 14 号 第 15 号	移動監視者	書類	【積載量 3,000kg 以上】 運転者が製造保安責任者免状(*2)又は移動監視者講習修了証等を携行しているか。	適 不適
第 16 号 54	緊急時の措置	書類	【積載量 3,000kg 以上】 充填容器等が危険な状態になった場合又はそれらに係る事故が発生した場合の措置を講じているか。	適 不適
第 18 号	注意書面	書類	移動中の災害防止のために必要な注意事項を記載した書面(*3)を携行しているか。	適 不適

容器保安規則関係基準（保安法第 46 条第 1 項、第 48 条第 1 項第 5 号）

基準	検査項目	検査方法	判定基準	検査結果
容器則 第 10 条	容器の表示	目視	(1)「液化石油ガス」、「燃」を明示してあるか。 (2) 容器所有者の氏名又は名称、住所及び電話番号を明示してあるか。	適 不適
容器則 第 24 条	容器の再検査	記録類	容器の再検査を受検しているか。	適 不適

\*2 甲種化学・機械、乙種化学・機械、丙種化学（液石・特別）

\*3 参考；(一社)日本化学工業協会 物流安全管理指針に係る緊急連絡カード（イエローカード）

保安教育、危害予防規程、定期自主検査等について

基準	検査項目	判定基準	検査結果
保安法 第 27 条	保安教育	1. 保安教育計画を定めてあるか。 2. 保安教育の実施計画(年間計画等)を具体的に作成し、かつ、実施しているか。 保安教育回数 _____回/年 保安教育計画に定める保安教育対象者に漏れがないか。  3. 充てん所においては、配送センター、出入りの販売店の職員を含め、高圧ガス移動に関する教育を行っているか。  4. 保安教育内容、結果等が詳細に記録されているか。 ・教育実施者の氏名 ・教育を受けた者の氏名 ・教育資料等 ・その他（教育の写真等）  5. 防災訓練を実施しているか。 内容：_____ 回数：____回/年	1. 適 不適 2. 適 不適          5. 適 不適
液石則 第 81 条	定期自主検査	(1) 製造設備の自主検査を毎年定期に年 1 回以上実施しているか。 (2) 保安係員は定期自主検査の検査記録を作成し、保存しているか。	(1) 適 不適 (2) 適 不適
液石則 第 61 条	危害予防規程	1. 保安管理体制 (1) 届け出を行った危害予防規程に定める体制と一致しているか。 高圧ガス保安統括者（同代理者）の地位、職務は適当であるか。 高圧ガス保安係員（同代理者）の地位、職務は適当であるか。 高圧ガス保安係員講習を受講しているか。 受講計画表等が整備されているか。	(1) 適 不適 適 不適 適 不適



危害予防規程の変更の履歴

	届出年月日	受付番号	変更の内容
制定	年 月 日	第 号	
改訂	年 月 日	第 号	
改訂	年 月 日	第 号	
改訂	年 月 日	第 号	
改訂	年 月 日	第 号	

## 保 安 管 理 組 織 表

【      年    月    日現在】

保 安 統 括 者	保 安 統 括 者 代 理 者
職名	職名
氏名	氏名
免状の種類	免状の種類
選任    年    月    日	選任    年    月    日

保 安 技 術 管 理 者	保 安 技 術 管 理 者 代 理 者
職名	職名
氏名	氏名
免状の種類	免状の種類
選任    年    月    日	選任    年    月    日

保 安 係 員	保 安 係 員	保 安 係 員	保 安 係 員
職名	職名	職名	職名
氏名	氏名	氏名	氏名
免状の種類	免状の種類	免状の種類	免状の種類
選任    年    月    日			
保安係員講習受講年月日 年    月    日	保安係員講習受講年月日 年    月    日	保安係員講習受講年月日 年    月    日	保安係員講習受講年月日 年    月    日
保 安 係 員 代 理 者	保 安 係 員 代 理 者	保 安 係 員 代 理 者	保 安 係 員 代 理 者
職名	職名	職名	職名
氏名	氏名	氏名	氏名
免状の種類	免状の種類	免状の種類	免状の種類
選任    年    月    日			

## 保安統括者等届出のタイミングについて

< 液石則第 65 条、72 条、73 条、76 条 >

保安統括者	: 選任・解任の都度
保安統括者の代理者	: 選任・解任の都度
保安技術管理者・保安係員	: 8月1日～7月31日にあった選任・解任の状況を その後遅滞なく届出
保安技術管理者・保安係員の代理者	: 届出不要
販売主任者・特定高圧ガス取扱主任者	: 選任・解任の都度
販売主任者・特定高圧ガス取扱主任者の代理者	: 代理者制度なし